

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872100397		
法人名	社会福祉法人 福竹会		
事業所名	グループホーム鹿島の郷		
所在地	兵庫県高砂市阿弥陀町南池94-1		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「歩んで来られた人生を大切に、輝き続ける生活を応援します。」を運営理念としている。
 ご利用者が自分らしく暮らしてもらえる支援を工夫しながら、グループホームらしい活動的な生活を過ごしてもらっている。
 また、健康管理については、主治医、専属の看護師、薬剤師等と連携して万全を期している。
 これからも、ご家族・地域の皆様のご協力をいただきながら、認知症ケアの拠点としての役割を果たしていきたいと考えている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた環境の中、視界に広がる風景から自然の移り変わりが感じられる。生活空間が広く明るく清潔感があり、ベランダ・ウッドデッキ・畳やテーブル席の談話スペース等、思い思いに快適に過ごせる環境である。現在は、地域交流・外出・併設のデイサービスとの交流は休止しているが、広い敷地を活用し、散歩や外気浴、プランターでの花や野菜の植栽等、戸外で過ごせるよう支援している。手作りの食事作りを継続し、季節に応じた作品を制作して飾り、季節の行事、家事参加等、日常生活の中に季節感や生活感を取り入れられるよう取り組んでいる。施設内研修体制を整備し、人事考課制度・定期的な会議・年間目標の設定と目標管理等、職員の資質向上に注力し、今年度の目標を「5つの言葉」とし、接遇の強化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より「地域の方々・ご家族とともに支えていく」を理念としている。 運営や個別ケアを考える際のよりどころとして職員も認識しており、日々の生活の中で自然な形で実践に繋がるよう図っている。	グループホームの理念・基本方針を作成し、基本方針に地域密着型サービスの意義を取り入れている。玄関・各ユニットの事務所に掲示し、ハンドブックに明示し職員の共有を図っている。年度初めの施設内研修やグループホーム会議で、理解を深める機会を設けている。理念をもとに、職員が参画して年間目標を設定し、3ヶ月毎に評価を行い理念の実践につなげるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で今年は中止になったが、地域の祭りや行事への参加など、地域との交流には積極的に参加している。	通常は、買い物・ドライブ・外食・祭り等、利用者が地域に出かける機会を設けている。学生ボランティアの来訪があり、デイサービスのイベントで地域のボランティアやデイサービスの利用者との交流もある。月1回、認知症カフェを開催し、地域から多数の参加があり、交流の支援や相談支援を行っている。地域主催の老人会や、民生委員の「一人暮らし対象の会」に参加し、介護保険や施設についての説明や相談支援を行っている。現在(コロナ禍)は、地域交流・地域貢献を休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを継続して実施しており、地域で悩みを抱えている方への相談を受け付けている。 また、居宅介護支援事業所との連携を図り、地域主催の老人会へも参加し、民生委員の方と一人暮らし対象の会へも協力している。		

グループホーム鹿島の郷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のヒヤリハット等の事例検討・事故の報告・行事報告等、また、身体拘束廃止についても3ヶ月に一度、取り組みについて話し合いを行っている。	利用者・家族・地域代表(民生委員・社会福祉協議会前理事長)・知見者(認知症をかかえる家族の会前会長)・地域包括支援センター職員を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者状況・行事・ヒヤリハット事例等を報告し、事例報告や身体拘束廃止についての検討等も行っている。会議資料と「鹿島だより」を配布し、行事や生活の様子を写真を見ながら説明している。参加者一人ひとりに発言をお願いし、意見・提案・情報をサービスや運営に反映させるように努めている。令和2年3月・5月は書面会議とし、構成メンバーに議事録を郵送している。	運営推進会議の議事録は、個人情報に配慮したうえで、設置等により公表することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	これまで培ってきた行政との関係を更に強固なものとするため、小さな疑問であっても放置することなく、直接、高年介護課に出向いて話ができる場を構築している。	報告・相談等があれば高年福祉課に出向き、適宜助言・情報を受け運営などに反映している。運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、利用者の状況や事業所の取り組み等を伝え連携を図っている。2市2町連絡会や高砂市グループホーム連絡会を通して、市との連携がある。町内会長の協力があり、町内会との協力関係づくりにも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」を明確な方針として打ち出しており、玄関を含め階段も施錠せず、行動制限をしないようにしている。また、身体拘束廃止委員会設置により話し合いの場を持つとともに、計画的な研修テーマとして研鑽している。 現在までに身体拘束の事例はない。	「身体拘束などの適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束廃止委員会」を設置し、運営推進会議の中で実施し、職員会議で委員会の内容を説明している。年間研修計画をもとに、年2回、「身体拘束・虐待防止」の施設内研修を実施している。研修にチェックシート・画像研修・確認テスト等を取り入れ、職員の理解を深め、意識向上に努めている。共用空間は広く、玄関は日中施錠せず、閉塞感のない暮らしを支援している。	職員会議を主体にした「身体拘束廃止委員会」の開催を検討されてはどうか。

グループホーム鹿島の郷

自己 評価	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束等を毎年研修テーマとして取り上げ、研修を実施するとともに、常に言葉遣いや態度といった接遇を意識して対応している。 また、身体拘束廃止委員会の場でも虐待防止の話し合いを行っている。	虐待防止についても、身体拘束と共に研修を行っている。「身体拘束廃止委員会」の中でも、不適切ケアの防止について検討している。今年度は、年間目標に「5つの言葉」を設定し、3ヶ月毎に自己評価を行い、言葉による不適な対応がないように取り組んでいる。施設長・管理者が、業務改善・環境整備・介護の工夫・体調管理などに取り組み、職員のストレスがケアに影響しないように配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、権利擁護をテーマとした研修を実施している。 また、成年後見制度についてもパンフレットを用意している。	成年後見制度など権利擁護に関する制度についても、施設内研修で毎年研修を実施している。近年、制度利用している利用者はいない。今後、制度利用の必要性や家族から相談があれば、施設長が窓口となり、併設の居宅介護支援事業所と連携し支援できる仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、料金、退所基準、支援内容等を説明している。 更に分かり易くするため、常に見直しの検討を行っている。	入居希望の見学時には、パンフレット・料金表をもとに概略を説明している。契約時には契約書・重要事項説明書・各種同意書を用いて説明し、特に、料金・退所基準・退居時の支援体制については詳細に説明し、文書で同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合は、時期が合えば家族会で説明し、通知、または、文書で同意を得る等、内容に応じて適切に対応している。契約終了の際は、法人内の施設も含め家族に情報提供を行い、円滑な住み替えに向けて支援している。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、利用者や家族の要望を聞き取り議題としている。 また、普段から来所された家族には日頃の様子を伝え、自然と要望を言えるような雰囲気づくりに配慮している。	通常は、家族の面会時に近況を報告し、意見・要望の把握に努め、年2回家族会も実施している。現在は、家族の面会を制限し、主に電話での対応となっている。「鹿島だより」に写真を多く掲載し、生活の様子や行事・利用者の表情を伝え、「生活だより」で各利用者の担当職員が手書きで1か月の様子を伝え、家族が意見・要望を表しやすいように配慮している。家族の意見・要望は、申し送りや「ホーム日誌」「利用者別申し送り」で共有し対応している。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員での会議のほか、グループホームのみの会議には必ず管理者が出席し、職員の意見や提案を聴取して、事業の遂行に反映させている。	月に1回全体会議、グループホーム会議を実施し、施設長・管理者が出席し、職員の意見・提案を把握している。グループホーム会議の前に検討事項についての職員の意見を集約し、会議を効率的に進行し、職員の意見・提案を利用者のケア・業務等に反映できるように取り組んでいる。日常業務の中でも、施設長・管理者が職員の意見の把握に努め、面談を行ったり会議で検討する等、内容に応じて対応している。人事考課の面談でも、個別に意見を聴く機会を設けている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課規定に基づき、勤務実績・自己啓発等が評価され、昇格・賞与に反映する人事制度を設けている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、体系的な研修を実施している。 また、外部研修の案内もしており、学ぶ機会を提供している。		

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の4市町で連絡会を設置し、交流の場としている。 また、老施協にも加盟しており、研修や図書案内を活用している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に信頼関係が出来ているケースはほぼない。そのため、面接に複数回訪問したり、施設に来ていただいた時に時間を十分取るなどにより、利用者の思いを理解するように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの受付時より入居に至る間の相談支援が、サービスを導入する段階での信頼関係に影響を及ぼすので、入居後と同じくらい入居前の支援を大切にしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期的にはグループホーム利用が最善と思われても、緊急に対応しなければならない問題を抱えている場合がある。そのため、医療機関や法人の関連施設との連携体制を整えている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは利用者と職員が共に暮らす生活の場と考えている。日課の無い共に暮らす生活の中で、利用者の表情や何気ない言葉に職員は支えられ、働き甲斐や喜びをもらっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えていくには家族の協力が不可欠であり、精神的な支えとして重要な役割を果たしている。 現在、コロナ禍で制限はあるが、できる限り面会に応じるなど、家族の足が遠のかないよう配慮している。		

グループホーム鹿島の郷

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化・重度化が進行しており、利用者一人一人の状態に応じた支援を行っている。コロナ禍では外出を制限せざるを得ないが、それまでは自宅に帰り、近所の方との交流を楽しまれていた。	通常は、家族・友人・知人の面会があり、各フロアの談話スペースや居室でゆっくり過ごせるよう対応し、馴染みの関係継続を支援している。施設内のデイサービスとの交流も、関係継続の機会となっている。自宅や馴染みの美容院などには、家族が同行することが多く、外出しやすいように、職員が準備や時間の調整などを行い、関係継続を支援している。現在は、面会を制限し、デイサービスとの交流や外出を休止している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は必要以上に関与することはせず、見守ることを前提としている。些細なトラブルはあるが、職員の対応で穏やかな人間関係が保たれている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居が大半を占めており、医療機関への情報提供や、施設入所となる利用者には入所先の紹介をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で判断できる利用者は、自己決定を原則としている。 思いや希望を伝えることが難しい利用者には、問い掛けに工夫をしたり、表情や動きに注意し、思いの汲み取りや意向の把握に努めている。	入居時に把握した、利用者の思いや暮らし方の希望については、フェイスシートやアセスメントシートに記録している。入居後のコミュニケーションの中で把握した内容は、「利用者申し送り」やグループホーム会議等で共有を図っている。把握が困難な場合は、問いかけを工夫したり、表情や反応から汲み取れるように努めている。把握した思いや意向は、支援や介護計画に反映できるように取り組んでいる。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	待機期間を活用し、申し込みを受け付けた時から、不安や希望を聞く過程で様々な情報を得るように努めている。 面会に来られる馴染みの方々から有効な情報を得ることも多く、職員で共有しケアに生かしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者はそれぞれのリズムで生活しており、表面的な現状の把握ではなく、職員がそれぞれの角度から総合的に把握するように努めている。 利用者が有する力を暮らしに生かす支援として、チームによる状況把握に努めており、変化が生じた場合には速やかな対応が可能となっている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を優先し、その思いを支援、一人一人の生活リズムに沿った支援計画を行うための介護計画を作成している。 また、担当医師や看護師の意見を取り入れ、現状に即した計画にしている。	「フェイスシート」「アセスメントシート」をもとに課題分析を行い、利用者の生活習慣・希望や家族の要望等を踏まえ、初回の「介護サービス計画書」を作成している。日々のサービス実施状況は「介護記録」「申し送り」と各種チェック表に記録している。「介護記録」シートには、予め利用者のニーズと、日課とするサービス内容項目が番号付けで抽出してあり、職員が介護計画の内容を周知し、計画にもとづいたが実施を記録できる仕組みがある。月1回のグループホーム会議では毎回利用者2名づつ、事前に職員が提出した介護方法に関する意見や課題等を集約した内容で検討し、現状に即した支援を共有している。月1回モニタリングを行い、基本的に6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直し時は再アセスメント、グループホーム会議での検討、家族の要望や主治医・看護師などの意見を反映している。主治医・看護師など関係者の意見は、「サービス利用に際しての特記事項」に記録している。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や実際に行った介護の記録は正確に記載させているが、気づきや工夫の記録は職員によりバラつきがあり、十分とは言えない状況である。 そのため、グループホーム会議の場において、全員で改善に向けての話し合いを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能な支援とは、柔軟な支援を支える体制があることだと考えている。外出の支援や趣味・嗜好への対応、医療的ケアには多くの実績がある。 今後も併設事業所や医療機関と連携し、積極的に取り組む方針である。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個人が地域資源を活用できている状況ではないが、施設を通して様々な資源を活用している。 例えば、市民センターや自治会との連携、小中学校との交流、民生委員との情報交換、ボランティアの受け入れ等を活発に行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間オンコールが可能な医院と連携しており、必要な時に必要な治療が受けられる体制を整えている。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。現在は全利用者が協力医療機関の内科医往診を希望しており、必要時に受診している。グループホーム専属の看護師が日々の健康管理・状態観察を行い、往診医との連携を図っている。通院を要すると判断された時は往診医の紹介状と情報提供で適切な医療が受けられる体制がある。通院時は基本的には家族の同行を依頼しているが、状況に応じて施設長や看護師が同行支援している。往診や通院受診結果は「受診記録」に記録し、「申し送り」で職員間で共有している。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師のほか、併設のデイサービスの看護師もあり、利用者の受診や介護職員への医療的なアドバイスなど支援体制は整っている。	/	
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が同行して情報提供するとともに、情報提供書を作成している。また、地域連携室や医師等と積極的な情報交換を行い、早期退院に努めている。 また、退院カンファレンスには、職員と看護師が参加し、受入れ態勢を整えている。	入院時は施設長が同行し「情報提供書」と口頭で情報提供している。通常は施設長や管理者が面会に行き、本人に安心感を与えるとともに、地域連携室や医師等と積極的に情報交換している。現在は面会制限から電話連絡での情報交換に努め、早期退院に向けた支援を行っている。退院前カンファレンスには施設長・管理者・看護師が参加し、入院中に把握した情報は「医療記録」「申し送り」に記録として残し共有している。退院時は「看護サマリー」の提供を受け、介護計画の見直し含め、退院後の支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、「看取り」に対する体制を積極的に行っていない。契約の際に重度化した場合の説明を行っている。 施設の出来る事と出来ない事を詳しく説明するほか、本人・家族の要望や方針の変更にも柔軟に対応するように努めている。	契約時、「重度化対応指針」に沿って重度化・終末期に向けた方針と、事業所としてできる事・できない事を説明し同意を得ている。経口摂取が困難になった段階で、主治医から家族に説明があり、今後の支援方法について繰り返し話し合いを重ねながら家族の意向を確認している。退所時は、現状に適した施設等(法人内・外)の紹介や情報提供等、家族の気持ちに寄り添いチームで支援に取り組んでいる。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員を講師に招き、定期的に応急手当や心肺蘇生の研修を行うとともに、AEDや酸素ボンベを設置している。 また、専属の看護師による対応可能な体制が整っている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員に対し、非常災害時の研修を実施している。また、研修における災害対策マニュアルを更に充実した内容とするため、問題点の抽出に取り組んでいる。	年2回、昼・夜想定で利用者も参加して通報・消化・避難の総合訓練を実施している。通常は年1回、近郊の消防署が立ち合い、利用者の状態に応じた避難方法・経路等、具体的な指導を受けている。「実施計画」「実施報告」で実施記録を残し、職員に回覧するとともに、全職員が交代に訓練に参加できるよう勤務シフトを工夫して周知を図っている。昼間想定訓練は施設内合同で連携体制を確認し、職員間の緊急連絡網の整備、町内会との地域連携にも努めている。非常用食料・備品等は各ユニットで準備し、担当職員が管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員が共に生活する場では、利用者の人格を尊重し、年長者として尊敬することを基本方針としている。羞恥心への配慮を欠いたケアや、自尊心を傷つけるような言動が無いよう、会議・研修で注意し、履行の徹底を図っている。	利用者尊重やプライバシーの確保について、施設内合同研修の各種研修内容に取り入れ、理解を深めている。グループホームの年間目標を「5つの言葉」と定め、グループホーム会議で振り返りの行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応について意識向上に努めている。施設長や管理者が、日々の支援の中で気付いた事を職員と共に話し合い、注意喚起している。「鹿島だより」やブログでの写真使用は契約時に同意を得て、掲載前にも改めて同意を得ている。個人ファイル類は各ユニットの事務所で、施錠できる書庫に保管している。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のみではなく、一人一人に合った方法で自己決定の場面を作るようにしている。 認知症の進行により自己決定が難しくなった利用者には、意思・希望の表出に職員が気付くことができるよう、日頃から思いを汲み取る努力をしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に「その方らしく暮らしていただく」と定めており、自宅での生活に近づけるよう努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けているが、おしゃれをされている方は少ない状況である。 しかし、毎朝、着る服を選んだり、お化粧をする方もいらっしゃるため、手助けを行っている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理や片付けができる方は少なくなかったが、味見や野菜を切るなど出来ることを探し、協力いただいている。 また、季節行事には特別メニューとするほか、誕生日には好きなメニューを提供している。	業者から届けられる献立・食材と、地域の米店の米を使って各ユニットで調理し、手作りの食事を提供している。地域の方から農産物の差し入れや、施設内の菜園で収穫された食材等も加わり、季節感ある地産地消の食事提供に努めている。「食は健康のもとで大切」の考えのもとに、米にもち麦を入れたり、ファイバーAI、カテキン茶を取り入れ、自然排便に繋げている。毎週末はパン食に切り替え、月1～2回の行事食や誕生日会等、利用者からのリクエスト食を提供している。フロアのア일랜드キッチンには複数の利用者が食事づくりに参加できるよう設計しており、野菜の下ごしらえ・味見・テーブル拭き・お茶入れ・食器洗い等、個々の得意な力が活かせるよう支援している。通常は外食の機会を設けていたが、現在は休止している。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	喫食量や水分摂取量を記録し、水分摂取には注意している。 生活習慣病による食事制限がある方には食事量に注意を払い、食事量が落ちている方には食べやすい形態や献立を工夫するとともに、補助食品の使用等も行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨き、毎食後のうがいのほか、定期的に歯科医の往診による口腔ケアを行っている。 利用者個々のケアは、歯科衛生士の助言を受け対応しており、義歯洗浄は主に夜間に行っている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄はトイレで」が職員の共通認識である。 夜間にはリハビリパンツを使用する方はいるが、昼間はパットを使用し、トイレでの排泄を支援している。使用負担の軽減から、ボクサーパンツの利用も行っている。	利用者一人ひとりの自立度をアセスメントし、「排泄チェック表」で排泄パターンや排泄状況を把握しながら、日中はトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援に取り組んでる。グループホーム会議で、日々の介護の中で気付いた事や課題を共有して検討し、利用者個々の現状に即した介助方法・排泄用品の使用につなげている。必要時には2人介護で支援し、自力でリハビリパンツの上げ下げが困難な利用者にはボクサーパンツを活用し、自立支援・排泄用品使用の軽減に努めている。誘導時の声掛け・ドアの開閉等に留意し、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、軽い運動、また、現在は繊維質の多いファイバーAIを中心にしながら、便秘薬には頼らない方向で取り組んでいる。		

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めず、毎日でも入浴は可能であるが、体調や体力を考慮して希望に添えるように支援している。入浴は概ね隔日のペースとなっており、無理強いは行わないようにしている。	「入浴チェック表」で入浴状況を把握し、一日おきの入浴を基本としている。曜日や時間帯を決めず、利用者の希望や状況に応じて、週5～6回の入浴にも応じている。足が延ばせる個室の浴槽で随時湯を入れ替え、自身のペースでゆったり入浴できるよう支援している。拒否があった時は無理強いせず、声掛けの工夫等に努めている。利用者の状態に応じて必要時は2人介助や、施設内の機械浴を使用し、安全面に配慮している。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を取り入れ、入浴が楽しめる工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には、横になる時間が多くなった方もおられる。そのため、少し休みたい時はデイルームの畳を使用し、疲れた様子が見られる時は自室でゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬剤師による居宅療養管理指導を利用している。 複数の医療機関を受診される方は管理面で専門性が高まっており、そのため疑問や相談を24時間オンコールで適切な指導を受けられる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に役割は定めていないが、調理や掃除等その日の調子に合わせて職員が声を掛け、出来る範囲でしてもらうよう支援している。 また、デイサービスの行事にも積極的に参加し、生活にメリハリをつけるようにしている。		

グループホーム鹿島の郷

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍により外出は制限しているが、それまでは、食材の買い出しを利用して外出の機会を設けていた。外出は個別か小グループで行い、体調や希望に合わせて行き先を決めている。 これまでの恒例行事として、神戸市での大衆演劇の観劇会を開催している。	通常は、日常的には近隣の神社等への散歩や食材の買い物、また、花見・秋祭り・紅葉鑑賞・大衆演劇・外食等、外出支援に積極的に取り組んでいる。現在は外出を休止しているため、施設の広い敷地内での散歩、畑・菜園・花壇の世話・収穫、また、ベランダやウッドデッキでの外気浴など、戸外で過ごせるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の現金所持は禁止としていないが、盗難や紛失の可能性があるので勧めはしていない。 ただし、買物に出かけた時にレジで支払ってもらうなど、お金に触れる機会を奪わないように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字を書くことはかなり厳しい状況であるが、希望があれば支援を行うほか、電話についても希望に沿うように支援している。 また、担当する職員が毎月、お便りを出している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は明るく開放感を感じられるように配慮している。 また、季節感のあるものや、利用者の作品を展示し、自分の家として意識してもらえるよう工夫している。	2棟に分かれている各ユニットは、どちらも生活空間が広く、清潔感がある。天井が高く開放感があり、大きな窓からの自然光で明るく、山や畑の自然風景が臨める。ベランダ・ウッドデッキ・畳やテーブル席の談話スペース等、思い思いに快適に過ごせるスペースがある。季節の壁飾りや、行事に合わせて職員が手作りしたお神輿・クリスマスツリー等を飾り、季節感を取り入れている。行事等の写真を掲示し楽しい雰囲気作りがある。アイランドキッチンを設置し、複数の利用者が食事・おやつ作りに参加できる広さがあり、また、洗濯もの干しやたたみにも参加し、生活感が感じられる。長い直線の廊下に手すりが設置され、歩行訓練に活用されている。	

グループホーム鹿島の郷

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外で静かに過ごすことができるスペースとして、数か所にテーブルや椅子を配置しているが、その際、周りの視線を感じないよう、場所や物の配置に工夫をしている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの家具等を用意してもらっており、これまでの生活が感じられる居室となるよう家族からの聞き取りを行い、レイアウト等を決めている。	居室は和室と洋室のタイプがあり、各居室に洗面台・クローゼット・エアコン等が設置されている。家族に、自宅で使用していた物を持ち込むよう協力を依頼し、筆筒・鏡台・テーブルセット・テレビ・観葉植物・家族の写真等を持ち込まれ、その人らしさが感じられる。自宅での家具の配置や動線確保を考慮してレイアウトを決め、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。利用者担当の職員が中心となり、家族と連携し、居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路やトイレには不要な物は置かないようにするとともに、疲れたらすぐに座れるよう数か所に椅子を設置している。また、食堂のテーブルも食べやすいような高さになるよう配慮している。		